

## 和歌山病院での実習を終えて



岩崎 航太

今回は呼吸器内科の臨床実習として10月16、17日の2日間、和歌山病院での実習をさせていただきました。学外での実習をするという機会はあまりないので、ためになること、新鮮なことも多くとても有意義なものとなりました。

まず、和歌山県で唯一の結核病棟の見学をさせていただきました。実際に見学するのは僕自身初めてだったのでとても良い経験となりました。特に実際に空気の流れがどのようになっているかということや、感染の対策がどのようになっているのかということを目で見て学ぶことが出来、理解が深まりました。結核の感染様式等についても詳しく教えてくださいましたので、結核に対してのイメージがとてもしやすく、知識がより深まったと感じました。いつか結核の患者さんを診る機会があったときには役立てることができると感じました。

南方院長の講義では、胸部X線の正常について基礎から教えていただきとてもためになりました。今まではなんとなくでしか見ていなかったのがぼんやりとしか理解ができていなかったことを理論に沿って説明して下さったのでとてもわかりやすかったです。また、教えていただく際も講義のような一方通行ではなく、私たちがじっくり考えながら話を進めて下さったので単純な暗記とは違い、今後も頭に残るものとなったと思います。それと同時に普段ポリクリをしている時は自分が如何に頭を使わずに過ごしているのかということも実感しました。南方院長は、医師は考えて物事を解決していくものだとおっしゃっていたので、私も少しは頭を使って考えて今後のポリクリをしていく必要があると感じました。また、良い医師になれよという南方院長の言葉がとても印象に残っており、その言葉を忘れずにこれから努力をしていきたいと思います。

2日間という短い期間でしたが、お世話になった南方院長、駿田副院長をはじめとする和歌山病院の方々ありがとうございました。